

特集

Special Issue

# カリキュラム・マネジメントで 生徒が輝く学校づくり



社会へのトランジションを視野に入れ、大学教育、高校教育、  
入学者選抜の三位一体の教育改革が求められている狙い、背景は  
これまでも本誌でお伝えしてきました。

今、大学ではアドミッション・ポリシー（入学者受け入れ方針）、  
ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）、そしてカリキュラム・  
ポリシー（教育課程編成・実施の方針）の策定が法定化され、  
次年度から施行されます。入学から卒業まで一貫して、  
それぞれの大学が特色ある教育に取り組み、  
自らの未来を切り拓いていく人材の育成が求められています。

では、高校現場では何が求められているのでしょうか。

「カリキュラム・マネジメントは管理職・教務にお任せ」「授業改善  
の取り組みでなかなか手が回らない」「マネジメントという言葉の  
響きにどうも馴染めない」などの声が聞こえてきます。

年内にも答申となる次期学習指導要領の審議では、

「社会に開かれた教育課程」という理念のもと、

カリキュラム・マネジメントの重要性について謳われています。

「生徒たちにこうなしてほしい」という先生方一人ひとりの思いを  
共通認識化していくと同時に、学校教育活動全体を通じた教科  
等横断での取り組みと、これからの社会で求められる「資質・  
能力の3つの柱」を育む主体的・対話的で深い学びへの取り組み。  
この縦糸と横糸を丁寧に教育活動に編み上げていくことが  
求められているのではないのでしょうか。

生徒の未来を紡ぐカリキュラム・マネジメント。教育活動全体を  
いかにデザインするか、先生方の思いと取り組みを  
小誌はこれからも応援していきたいと思えます。

山下真司（本誌 編集長）